

美術科学習指導案

学 級：1年1組 30人
場 所：美 術 室
指導者：教諭 相良 典隆

1 題材名

身近なものを立体で表そう（塑造による手の制作）

2 題材で育成する資質・能力

中学校学習指導要領（平成29年告示）において、美術科で育成する資質・能力の一つである「思考力、判断力、表現力等」として、「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする」ことが示されている。この「主題を生み出し」とは、生徒自らが感じ取ったことや考えたこと、目的や条件などを基に強く表したいことを心の中に思い描くことである。また、「豊かに発想し、構想を練る」とは、生徒が自ら生み出した主題を基に、対象を再度深く見つめたり内面や本質を捉え直したりして、自分の思いや願い、他者への気持ち、分かりやすさ、良さや美しさ、あこがれなどを考えながら豊かに発想し構想を練ることである。

本校生徒は、心の中に思い描いたイメージから構想を練り、色や形で表現することに対して、主体的に取り組むことが苦手な傾向が見られるが、これは、これまでの学習でイメージと形をつなげる経験が十分ではなかったためであると考えられる。そこで、上記の資質・能力を培うためには、イメージを形にして表現する活動が必要である。

本題材は、自分が表現したい感情のイメージを、粘土を用いて「手の形と色彩」によって表現する題材である。「喜び」や「悲しみ」などの感情のイメージを手の形で表現するためには、自己の内面を見つめ、感情に対するイメージから構想を練り、見る人にテーマが伝わるように、粘土という多様な表現が可能な素材を生かしながら表現を工夫する必要がある。普段見慣れている自分の手をよく観察し、実際に触れながら形づくることで、関節などの構造を理解しながら人間の手の形を認識することもできると考える。また、手の形が完成した後に感情のイメージを基にして手を着彩するが、自己のイメージだけではなくグループ内での意見交換を通して、自他の感情に対するイメージの違いを理解し、考えを広げる場を設定する。さらに、寒色や暖色、補色等の色に関する既習の知識を活用することで、よりテーマが伝わる効果的な色や模様を工夫できると考える。

これらの、自分の表現したい感情のイメージを広げ、そのイメージを実現させるために、形や色、材質などの造形の要素を造形的な視点として創意工夫して表現し、自他の表現の意図や良さを味わう活動を通して、表現や鑑賞の活動を楽しみながら主体的に活動に取り組む姿勢を身に付けさせたい。またそうすることで、題材の中心となる考えである、「感情は形や色で表現することができ、表現された形や色から感情を読み取ることができる」ことについて、実感させることができると考える。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 形や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果を理解し、全体のイメージや作風などでとらえている。</p> <p>② 表したいイメージを基に意図に応じて粘土や絵の具などの特性を生かして表現を工夫するとともに、形成や着彩の順序などを考え、見通しをもって表している。</p>	<p>① 感情から感じ取った形や色彩などを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、構想を練っている。</p> <p>② 造形的な良さや美しさ、感情のイメージや主題と表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わうなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>① 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出して創意工夫して表したり、表現の工夫などを感じ取ったりしようとしている。</p>

4 指導と評価の計画

次	時間	学 習 活 動	必 要 性	自 律 性	関 係 性	有 用 性	評価方法
1	1	1 参考作品等の鑑賞を通して、手の形やジェスチャーが人間の意思や感情を伝えることを確認する。 2 自分の伝えたい感情を選び、それが表現できる手の形を考える。 3 スケッチの基本を理解し、自分の手のスケッチを行う。	◎	○	○	○	知①：アイデアスケッチ 思①：アイデアスケッチ 主①：行動観察
	2	4 細部までよく観察しながら、様々な方向から自分の手のスケッチを行う。 5 完成したスケッチをお互いに鑑賞し、自他のもつ感情のイメージを味わう。	◎		○	○	知①：アイデアスケッチ 思②：リフレクションシート 主①：行動観察
2	3	6 針金で手の骨組を作る。	○	◎	○	○	技②：行動観察, 作品 主①：行動観察
	4	7 粘土をあらづけし、大まかな形を作る。 8 手の特徴を観察しながら、手の平の厚みや指・手首の太さを考えて肉づけしていく。		○	◎	○	技②：行動観察, 作品 主①：行動観察
	5	9 テーマを基に全体のバランスや動きなどを考えて、表し方を工夫する。		○	◎	○	技②：行動観察, 作品 主①：行動観察
	6	10 爪やしわなどの細部を仕上げる。		○	◎	○	技②：行動観察, 作品 主①：行動観察
3	7 (本時)	11 参考作品を基に、どのような色や模様で着彩すればテーマが伝わるか構想を練る。 12 グループ内でお互いの構想を発表し合い、意見交換を行う。 13 自分のイメージやグループ内の意見を基に、手のスケッチに着彩する色や模様のアイデアスケッチをする。	◎		○	○	思①：イメージマップ 思②：リフレクションシート 主①：行動観察

3	8	14 アイデアスケッチを完成させる。 15 アイデアスケッチのデザインを基に、手の塑造作品に着色する。	◎	○	○	知①：作品 技②：行動観察, 作品 主①：行動観察
	9	16 細部まで着色し、作品を仕上げる。	○	◎	○	知①：作品 技②：行動観察, 作品 主①：行動観察
4	10	17 お互いの作品を鑑賞し、意見交換を通して自他の工夫やイメージを味わう。 18 鑑賞しての意見や感想を、リフレクションシートに記入する。	◎		○	思②：リフレクションシート 主①：行動観察

5 本時の実際（7 / 10）

(1) 学習目標

- 形や色彩がもたらす効果を理解し、表現に生かすことができる。 [知識]
- 感情のイメージをよりよく伝えるために、色鉛筆などの画材を効果的に使用することができる。 [技能]
- 自己の感情を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさなどを基に、創造的な構成を工夫し、構想を練ることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等]
- 感情のイメージを基にした色や模様的美しさ, 主題と表現の工夫などを感じ取り, 自分の思いや考えをもって味わうことができる。 [思考力, 判断力, 表現力等]
- 感情を色や模様で表現することに関心をもち, 主体的に創意工夫して表したり, 表現の工夫などを感じ取ったりすることができる。 「学びに向かう力, 人間性等」

(2) 研究の取組

- ア 生活の中の美術の働きや美術文化に着目し、心豊かな生活を創造していくための美術の必要性を認識させ、生徒それぞれに表現及び鑑賞の目的意識をもたせる。
- (ア) 導入段階で資料や参考作品の提示を工夫し、題材の必要性（目的）を意識させ、生徒それぞれの課題をもたせる。【必要性】
- (イ) グループ活動等の話し合い活動により、課題を焦点化させ、自分なりの必要性（目的）を見いだす場の設定。【必要性】
- イ 各題材における生徒それぞれの課題を解決するための見通しをもたせる。
- (イ) リフレクションシートを活用して、生徒が学習の順序を理解し、計画的に進めていくことができるようにする。【自律性】
- (ロ) これまでに身に付けた知識や技能をどのように生かしていくことができるか、自分なりの表現の工夫について考えさせる。【関係性】
- ウ 学習を振り返り、次の学習の課題へと結びつける場の設定。
- (イ) リフレクションシートを活用して学習の振り返りをさせ、できたことと新たな気づきを確認させる。【有用性】
- (ロ) 鑑賞活動により、お互いの作品を鑑賞し、作者の制作意図や表現の工夫について味わい、意見交換をすることにより、自分なりに新たな価値意識を構築する手立てとさせる。【有用性】

(3) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	研究の取組
導入	5分	一斉	1 感情を表現できる色や模様について考える。	・ 参考作品からどのような印象を受けるかを考え、構想を練るヒントにさせる。	必要性 アー(ア) 既習の知識を制作に生かせるよう、色の性質などを再確認させる。
展開	10分	一斉	2 本時の目標を確認する。	感情(テーマ)がよりよく伝わる色や模様を考えよう。	
		個	3 自分の選んだ感情のイメージで、塑造の手にどのような着彩を施すか考える。	・ 感情のイメージを色や言葉、関連する事柄で羅列して、イメージマップにさせる。	関係性 イー(イ) これまでに学習した知識を、構想を練るヒントにさせる。
	15分	グループ	4 グループ内で自分の選んだ感情とそのイメージを発表し、他のメンバーがどのようなイメージをもつか意見交換を行う。	・ 一つの感情に対して自他のもつイメージの違いがあることを確認し、アイデアスケッチの参考にさせる。	必要性 アー(イ) グループ内の意見を聞き、他者のイメージを知ることで見方・考え方を広げ、構想を練るヒントにさせる。
	10分	個	5 自分の手のスケッチに、着彩のアイデアスケッチを行う。	・ 色鉛筆を使用して、着彩に取り組ませる。	関係性 イー(イ) 言葉による自他のイメージを基に、着彩する色や模様を工夫させる。
終末	5分	一斉	6 お互いのアイデアスケッチを鑑賞する。	・ 構想がまとまらなかった生徒への今後のヒントにさせる。	有用性 ウー(イ) お互いの制作意図や表現の工夫について味わい、新たな価値意識を構築する手立てとさせる。
	5分	個・一斉	7 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。	・ 本時の気づきや次時の取組をリフレクションシートに記入させる。	有用性 ウー(ア) リフレクションシートを活用して学習の振り返りをさせ、できたことと新たな気づきを確認させる